

2026年度 第10回川崎市学童軟式野球たまなみ大会 大会要項

- 大会名称 川崎市学童軟式野球たまなみ大会
- 大会主催 川崎市学童野球連盟
- 大会後援
川崎野球協会
東京新聞
ナガセケンコー株式会社
ローリングスジャパン LLC
- 目 的 川崎市学童野球連盟加盟チーム全体の交流を目的とした学童軟式野球大会を開催する。
全てのチームに、他の地区との交流が出来るような野球大会を開催することで、
チームおよび指導者の視野が広がることを目的とする。
- 開催方法 参加希望チームを募り、準々決勝戦まではそれぞれの対戦チーム同士が、試合場所、
日程、時間、審判員確保等を調整して試合を消化し、準決勝進出チームを決定する。
準決勝から連盟で試合会場および日程を決定する。
準々決勝戦までの試合会場や日程等の運営について、各地区的市学童副事務局長は
十分把握し、大会事務局と連携して試合日程の消化に努める。
合同チーム及び女子連合チームの参加も認める。
- 試合会場 準々決勝戦までの試合会場は、対戦チームで調整して確保する。
- 参加資格 川崎市学童野球連盟登録チームとする。
登録するスタッフ、選手、給水係はスポーツ保険に加入のこと。
- 抽選会 2月14日（土）に大会本部にて実施する。
(大会事務局はその結果をまとめ2/14以降速やかにホームページに掲載する)
- 参加費 5,000円/チーム
参加費は、各地区連盟が参加チームから徴収して、2/14迄にまとめて連盟に振込む。
- 申込期限 所定の出場申込書（別添）に記入して2026年2月1日(日)までに申し込む。
- 上部大会出場推薦
優勝チームは川崎市学童野球連盟より横浜銀行カップへの出場推薦を行う。
但し、優勝チームが他大会の結果により横浜銀行カップの出場権を得た場合には、
準優勝チーム、第三位チーム、第四位チームの順に出場推薦を行う。
- 試合球 ナガセケンコーボールJ号球
- 試合予定 の報告 準決勝の試合より、大会本部が試合毎に4個およびロジンを拠出する。
上記の開催方法に基づき試合予定の日程と試合場所を事前に各地区連盟に報告する。
準々決勝戦までは試合会場を確保したチームが所属する地区的市学童副事務局長が
大会事務局、市学童ホームページ担当へメールで連絡する。
(報告事項は試合の回戦・対戦チーム・日程・時間・試合場所)
試合予定は次の対戦相手が日程調整を容易にするためにホームページに掲載する。
- 試合結果 の報告 当該勝利チームは試合結果を各地区的市学童副事務局長に報告する。
各地区市学童副事務局長は内容確認後、次週の火曜日までに大会事務局および
市学童ホームページ担当に報告する。結果はホームページに掲載する。
- 組合抽選 同一地区チームの対戦は、1回戦に発生しないよう工夫する。
- 規則 2026年度野球規則・競技者必携および第10回川崎市学童軟式野球たまなみ
大会特別規則を適用する。
本年度の改訂規則については市学童審判部長から地区連盟審判部長に説明し適用する。
また、試合会場のグラウンドルールは試合前に当該チーム間で確認して試合を行う。
- 使用バット 安全性の確保のため、大会で使用可能なバットは金属または木製バットのみとする。

- 試合の実施 標準試合ステップごとの期限までに試合を実施すること。
また、試合実施不可の理由として一方のチームの事情が明確な場合は、該当チーム納得のうえで棄権となる。
但し、各区大会・県大会・学校行事等で期限内に実施できない場合は、運営委員長が状況を判断して、1週間程度の猶予を与えることができるものとする。それでも実施不可と判断した場合は、一方または両方のチームを棄権とする。
準決勝・決勝の日程において、学校行事または上部大会により試合実施が困難な場合には、予備日での試合日程の調整（前倒しで実施する可能性あり）を行う。但し、予備日での試合日程調整が困難な場合には、当該チームは棄権とする。

- 日程計画（試合ステップ）

		日程計画
抽選	大会本部にて実施	2/14（土）
一回戦	対戦チーム話し合いにて球場設定 審判員は各チームで2名ずつ派遣する	一回戦消化を ～3/8（日）までに
二回戦	対戦チーム話し合いにて球場設定 審判員は各チームで2名ずつ派遣する	二回戦消化を ～3/29（日）までに
三回戦	対戦チーム話し合いにて球場設定 審判員は各チームで2名ずつ派遣する	三回戦消化を ～4/29（祭）までに
四回戦	対戦チーム話し合いにて球場設定 審判員は各チームで2名ずつ派遣する	四回戦消化を ～5/24（日）までに
準々決勝	対戦チーム話し合いにて球場設定 審判員は各チームで2名ずつ派遣する	準々決勝消化を ～6/13（土）までに
準決勝	準決勝 2試合、終了後3位表彰式 審判部の協力を得て試合運営	6/27（土）（※1） (予備日 6/28(日))
決勝戦・表彰式	決勝戦、終了後表彰式 3位決定戦は行わない 審判部の協力を得て試合運営	7/4日（土）（※1） (予備日：7/5(日)・ 7/11(土))

※1：変更の可能性があります。

- 審判について

準々決勝戦までの試合は、1チーム2名の審判員を帯同する。

審判員は審判にふさわしい服装で行う。

審判員の確保は各チームで行うこととする。

- 試合会場および審判員について

当該チーム同士が試合会場や審判員を確保できない場合、各地区の理事又は市学童副事務局長に相談してください。

各地区的市学童副事務局長は、試合消化を把握して大会運営をスムーズに進めるために自地区参加チーム及び大会事務局との積極的連携をお願いします。

- 参加チームリストの配布について

参加申込書の監督名・連絡者名・連絡携帯番号を共有するために、全チーム掲載のリストを配布します。

当該チーム間の連絡は確実に連携するため携帯電話で行うことをご了承ください。

《大会事務局：問い合わせ先》

川崎市学童野球連盟 大会運営委員長 石垣

川崎市学童野球連盟 大会運営副委員長 矢島

川崎市学童野球連盟 たまなみ大会担当副事務局長 野原・三枝

2026年度 第10回川崎市学童軟式野球たまなみ大会特別規則

1. 大会適用規則

本大会は、最新版の公認野球規則・(財)全日本軟式野球連盟の競技者必携の中で、学童部に関する事項及び大会特別規則を適用

2. 大会特別規則

(1) 試合は6回戦とし、試合開始の「プレイ」宣言後、1時間30分を経過したらそのイニングが最終回とする。

(注) 決められた時間が経過したら、回数に関係なく正式試合とする。

(2) タイブレーク方式(特別延長戦)

6回を終了して同点の場合、決められた時間が経過して同点の場合はタイブレーク方式(最大2回)を行う。

タイブレーク方式は、継続打順で前回の最終打者を一塁走者、その前の打者を二塁走者とする。0アウト一塁・二塁の状態にして、1イニング行い得点の多いチームを勝ちとする。勝敗が決しない場合は、更に継続打順を行い勝敗が決しないときは、抽選で勝敗を決定する。

(注) 大会運営上6回が終了するか、決められた時間が経過して同点の場合はタイブレーク方式を行わず、抽選で勝敗を決定する場合もある。

(抽選) 抽選は、○×式とし、○印の多いチームを勝ちとする。

(3) 得点差によるコールドゲーム

得点差によるコールドゲームは、3回以降10点差・4回以降7点差とする。

(決勝戦は、4回以降7点差とする)

(4) 再試合

試合が4回以前に中止になった場合(ノーゲーム)、また4回が過ぎ同点で試合が中止になった場合(成立試合でタイゲーム)は、再試合を行う。

ただし、以後の試合日程から試合の勝者は、一日2試合を行うことになる。

(5) 投球数制限

投手の投球については、肘、肩の障害防止を考慮し、1人の投手は1日70球以内を投球できる。継続して70球に達した場合、その打者が打撃を完了するか攻守交代するまで投球できる。マークでの投球も投球数とする。また、1日でダブルヘッダーや特別継続試合を行う場合、タイブレークとなった場合、1日70球以内であれば引き続き投球することができる。(女子選手にも採用する)

(注) 4年生以下の投手は60球とする。

3. 打順表と攻守の決定

(1) 1日で複数試合開催の場合。第1試合は、試合開始予定時間の45分前までに、第2試合以降は前試合の2回終了時までに打順表を5通(登録された全員を記入し、必ずふりがなを付けたもの)を監督が大会本部に提出し、球審立会いのもと監督・主将で攻守を決定する。

攻守決定ののち、グラウンド内のブルペンで先発投手のみ投球練習を行っても良い。

(注) 前の試合が早く終了した場合は、予定時刻前に開始することがありますので、早めに球場に到着して前の試合経過に注視すること。

(注) 打順表に記載の4年生以下の選手は背番号に○印を付け提出すること。

(注) 両チーム監督は攻守決定時に、DH制を採用の可否を宣告する事。

(責任審判員はメンバー表を確認する事)

(2) ベンチは、組合せ番号の若いチームを 1 墓側とする。

試合中ベンチに入れる人員は、登録され同じユニフォームを着用した監督 30 番
コーチ 29・28 番、選手 25 名以内。チーム代表者・マネージャー・スコアラー
熱中症対策として、ビブス着用の保護者 2 名以内をベンチに入ることができる。
代表・マネージャー・スコアラーはチーム帽子着用すること。
(ベンチ入りの際、短パン・スカート・サンダルなどは禁止する)

4. 使用球と用具・装具

(1) 使用球は連盟公認のナガセケンコーボール J 号とする。

(2) チームはユニフォーム、アンダーシャツ等は、同意匠の物を着用すること。
(連合チームは、背番号を同意匠とすること)

尚、裾幅の広いストレートタイプのユニフォームズボンは、監督・コーチ
含めて使用を禁止する。

(3) ユニフォームの袖の長さは両袖同一で、左袖に日本字又はローマ字による
県名を必ず付けなければならない。また、他のものをつけてはならない。

(4) 使用可能なバットは、「一般・少年用共に打球部にウレタン・スポンジ等弾性体を
取り付けたバットの使用を禁止する」の市学童の規則に準ずる事。

(5) 捕手の装具は、SG マークのついた全軟連公認のマスク・捕手用ヘルメット
レガース及びファウルカップを必ず装着する事。(女子選手は着用が望ましい)

(6) 打者、次打者、走者、ベースコーチは、S・G マークのついた全軟連公認で
両側にイヤーフラップのついたヘルメットを着帽すること。

5. シートノックを行う場合は 5 分間とします。シートノックのとき、補助員としてコーチ
(背番号 28・29) も認める。補助員もヘルメット着用する事。
ただし、大会運営上シートノックを行わず試合を開始することがある。

6. その他の取り決め事項

(1) ファウルボールは、1 墓側のものは 1 墓側ベンチ、3 墓側のものは 3 墓側ベン
チ、本塁後方のものは攻撃側で処理すること。

(2) 攻守交代の時には、ボールを必ず投手板近くに置いて交代をすること。

(3) ベンチ内での電子機器類(携帯電話・パソコン等)、携帯マイクの使用を禁止するが
電子スコア用の電子機器 1 台は認める。メガホンは、ベンチ内に 1 個に限り許可する。

7. 試合のスピード化に関する事項

(1) 攻守交代はかけ足で行い、第三アウトが成立したら、プレーヤーは速やかにベンチ
を離れて、守備位置に向かうこと。

(2) 守備側のタイムの回数制限について

捕手を含む内野手が、投手のもとへ行ける回数は、3 回以内とする。

タイブレーク方式となった場合は、2 イニングに 1 回行くことができる。

往復を駆け足で行いプレイの開始を遅らせてはならない。

(3) 攻撃側のタイムの制限について

攻撃側のタイムは、3 回以内とし、タイブレーク方式の場合は、2 イニングに 1 回と
する。

(4) 投手の塁への送球

離塁していない塁への送球は遅延行為でボーカになる。また無用と思われる塁への送
球が度を過ぎると審判員が判断したら、反則行為とみなされる。

(5) ネクストバッターサークルでは、次打者はスタンディングで待って良いが、バットは
振ってはならない。